

## 【資料】

### 1 集計結果

#### (1) 身体拘束廃止についての取組状況等アンケート調査(取組状況等調査)

##### 調査対象

事業所の種別	(略称)
介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)	特養
介護老人保健施設	老健
介護療養型医療施設(療養型)	療養型
特定施設入居者生活介護	特定施設
短期入所生活介護・短期入所療養介護	ショートステイ
認知症対応型共同生活介護(グループホーム)	GH
小規模多機能型居宅介護	小規模多機能
地域密着型特定施設入居者生活介護	地域密着特定施設
地域密着型介護老人福祉施設入居者生活介護	地域密着特養

※平成25年8月1日現在で指定を受けている事業所を調査対象としています。

##### 身体拘束の禁止となる具体的な行為

具体的な行為の内容
① 徘徊しないように、車いすやいす、ベッドに体幹や四肢をひも等で縛る。
② 転落しないように、ベッドに体幹や四肢をひも等で縛る。
③ 他人への迷惑行為を防ぐために、ベッドなどに体幹や四肢をひも等で縛る。
④ 自分で降りられないように、ベッドを柵(サイドレール)で囲む。
⑤ 点滴・経管栄養のチューブを抜かないように四肢をひも等で縛る。
⑥ 点滴・経管栄養のチューブを抜かないように、または皮膚をかきむしらないように、手指の機能を制限するミトン型の手袋等をつける。
⑦ 車いすやいすからずり落ちたり、立ちあがったりしないように、Y字型拘束帯や腰ベルト、車いすテーブルをつける。
⑧ 立ち上がる能力のある人の立ち上がりを妨げるようないすを使用する。
⑨ 脱衣やおむつはずしを制限するために、介護衣(つなぎ服)を着せる。
⑩ 行動を落ち着かせるために、向精神薬を過剰に服用させる。
⑪ 自分の意思で開けることのできない居室等に隔離する。

①～⑪は「身体拘束ゼロ作戦」の推進について(厚生労働省通知 H13老発第155号)の中の「身体拘束の手引き」に掲載されている項目となります。

【質問1ー(1)】(事業所の状況)

○回答事業所数は、GH、特養、老健の順に多い。

回 答	H14			H16			H19			H22			H25												
	対象数	構成比(%)	回答数	対象数	構成比(%)	回答数	対象数	構成比(%)	回答数	対象数	構成比(%)	回答数	対象数	構成比(%)	回答数										
特養	123	42.4	106	45.5	86.2	147	32.8	103	32.5	70.1	176	24.5	120	29.6	68.2	185	23.0	143	27.0	77.3	205	21.1	152	23.3	74.1
老健	65	22.4	57	24.5	87.7	79	17.6	44	13.9	55.7	95	13.2	57	14.1	60.0	98	12.2	70	13.2	71.4	112	11.5	80	12.3	71.4
療養型	47	16.2	38	16.3	80.9	52	11.6	26	8.2	50.0	47	6.6	32	7.9	68.1	39	4.8	32	6.0	82.1	30	3.1	24	3.7	80.0
特定施設	19	6.6	8	3.4	42.1	29	6.5	16	5.0	55.2	63	8.8	39	9.6	61.9	77	9.6	53	10.0	68.8	97	10.0	57	8.7	56.8
ショートステイ	9	3.1	2	0.9	22.2	14	3.1	6	1.9	42.9	33	4.6	14	3.5	42.4	33	4.1	14	2.6	42.4	42	4.3	15	2.3	35.7
GH	27	9.3	17	7.3	63.0	127	28.3	75	23.7	59.1	259	36.1	118	29.1	45.6	285	35.4	149	28.1	52.3	336	34.6	202	31.0	60.1
小規模多機能	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	37	5.2	12	3.0	32.4	70	8.7	32	6.0	45.7	111	11.4	63	9.7	56.8
地域密着特定施設	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4	0.6	4	1.0	100.0	8	1.0	7	1.3	87.5	12	1.2	10	1.5	83.3
地域密着特養	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3	0.4	1	0.2	33.3	11	1.4	5	0.9	45.5	27	2.8	22	3.4	81.5
無回答	—	—	5	2.1	—	—	—	47	14.8	—	—	—	8	2.0	—	—	—	25	4.7	—	—	—	27	4.1	—
合計	290	100.0	233	100.0	80.3	448	100.0	317	100.0	70.8	717	100.0	405	100.0	56.5	806	100.0	530	100.0	65.8	972	100.0	652	100.0	67.1

【質問2-(1)】(意識)

下表の具体的な行為は身体拘束にあたると思うか

○「⑥」(87.0%)、「④」(91.3%)、「⑤」(92.5%)が身体拘束にあたるという意識は低い。

(上段:人数、下段:%)

対象者 数 具体的な行為	H14				H16				H19				H22				H25				合計				
	思う	思わない	わからない	回答なし	合計	思う	思わない	わからない	回答なし	合計	思う	思わない	わからない	回答なし	合計	思う	思わない	わからない	回答なし	合計					
① 徘徊しないように、車いすやひも等で縛る。	222	1	0	10	233	298	0	0	19	317	382	0	2	11	405	511	1	1	17	530	636	2	0	14	652
② 駆逐しないように、ベッドに体幹や四肢をひも等で縛る。	95.3	0.4	0.0	4.3	100.0	94.0	0.0	0.0	6.0	100.0	96.8	0.0	0.5	2.7	100.0	96.4	0.2	0.2	3.2	100.0	97.5	0.3	0.0	2.1	100.0
③ 他人への迷惑行為を防ぐために、ベッドなどに体幹や四肢をひも等で縛る。	215	3	5	10	233	293	2	1	21	317	390	2	1	12	405	511	1	1	17	530	630	6	0	16	652
④ 他人への迷惑行為を防ぐために、ベッドなどに体幹や四肢をひも等で縛る。	92.3	1.3	2.1	4.3	100.0	92.4	0.6	0.3	6.6	100.0	96.3	0.5	0.2	3.0	100.0	96.4	0.2	0.2	3.2	100.0	96.6	0.9	0.0	2.5	100.0
⑤ 自分で降りられないように、ベッドを柵(サイドレール)で囲む。	213	1	9	10	233	294	0	4	19	317	389	3	1	12	405	509	1	3	17	530	626	5	5	16	652
⑥ 点滴・経管栄養のチューブを抜かないように四肢をひも等で縛る。	91.4	0.4	3.9	4.3	100.0	92.7	0.0	1.3	6.0	100.0	96.0	0.7	0.2	3.0	100.0	96.0	0.2	0.6	3.2	100.0	96.0	0.8	0.8	2.5	100.0
⑦ 車いすやひもからずり落ちたり、立ちあがったりしないように、V字型拘束帯や腰ベルト、車いすテーブルをつける。	177	20	26	10	233	262	17	12	26	317	371	12	10	12	405	487	12	12	19	530	595	17	22	18	652
⑧ 点滴・経管栄養のチューブを抜かないように、または皮膚をかきむしらないように、手指の機能を制限するミトン型の手袋等をつける。	76.0	8.6	11.2	4.3	100.0	82.6	5.4	3.8	8.2	100.0	91.6	3.0	2.5	3.0	100.0	91.9	2.3	2.3	3.6	100.0	91.3	2.6	3.4	2.8	100.0
⑨ 立ち上がる能力のある人の立ち上がりを妨げるようないすを使用する。	188	10	21	14	233	268	7	16	26	317	365	8	21	11	405	487	8	17	18	530	603	12	17	20	652
⑩ 車いすやひもからずり落ちたり、立ちあがったりしないように、V字型拘束帯や腰ベルト、車いすテーブルをつける。	80.7	4.3	9.0	6.0	100.0	84.5	2.2	5.0	8.2	100.0	90.1	2.0	5.2	2.7	100.0	91.9	1.5	3.2	3.4	100.0	92.5	1.8	2.6	3.1	100.0
⑪ 車いすやひもからずり落ちたり、立ちあがったりしないように、V字型拘束帯や腰ベルト、車いすテーブルをつける。	150	37	35	11	233	242	26	29	20	317	335	21	35	14	405	455	30	28	17	530	567	39	28	18	652
⑫ 車いすやひもからずり落ちたり、立ちあがったりしないように、V字型拘束帯や腰ベルト、車いすテーブルをつける。	64.4	15.9	15.0	4.7	100.0	76.3	8.2	9.1	6.3	100.0	82.7	5.2	8.6	3.5	100.0	85.8	5.7	5.3	3.2	100.0	87.0	6.0	4.3	2.8	100.0
⑬ 車いすやひもからずり落ちたり、立ちあがったりしないように、V字型拘束帯や腰ベルト、車いすテーブルをつける。	181	16	25	11	233	272	13	11	21	317	374	7	11	13	405	491	6	16	17	530	611	14	12	15	652
⑭ 立ち上がる能力のある人の立ち上がりを妨げるようないすを使用する。	77.7	6.9	10.7	4.7	100.0	85.8	4.1	3.5	6.6	100.0	92.3	1.7	2.7	3.2	100.0	92.6	1.1	3.0	3.2	100.0	93.7	2.1	1.8	2.3	100.0
⑮ 立ち上がる能力のある人の立ち上がりを妨げるようないすを使用する。	203	6	12	12	233	279	2	11	25	317	376	5	13	11	405	494	4	15	17	530	619	4	10	19	652
⑯ 服やおむつはすしを制限するために、介護衣(つなぎ服)を着せる。	87.1	2.6	5.2	5.2	100.0	89.0	0.6	3.5	7.9	100.0	92.8	1.2	3.2	2.7	100.0	93.2	0.8	2.8	3.2	100.0	94.9	0.6	1.5	2.9	100.0
⑰ 服やおむつはすしを制限するために、介護衣(つなぎ服)を着せる。	185	25	11	12	233	269	12	16	20	317	372	10	12	11	405	493	7	13	17	530	616	10	10	16	652
⑱ 行動を落ち着かせるために、向精神薬を過剰に服用させる。	79.4	10.7	4.7	5.2	100.0	84.9	3.8	5.0	6.3	100.0	91.9	2.5	3.0	2.7	100.0	93.0	1.3	2.5	3.2	100.0	94.5	1.5	1.5	2.5	100.0
⑲ 行動を落ち着かせるために、向精神薬を過剰に服用させる。	194	2	27	10	233	276	5	14	22	317	371	4	18	12	405	480	6	26	18	530	613	6	16	17	652
⑳ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳	83.3	0.9	11.6	4.3	100.0	87.1	1.6	4.4	6.9	100.0	91.6	1.0	4.4	3.0	100.0	90.6	1.1	4.9	3.4	100.0	94.0	0.9	2.5	2.6	100.0
㉑ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳	207	4	11	11	233	286	2	8	21	317	388	2	4	11	405	506	1	6	17	530	624	2	9	17	652
㉒ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳	88.8	1.7	4.7	4.7	100.0	90.2	0.6	2.5	6.6	100.0	95.8	0.5	1.0	2.7	100.0	95.5	0.2	1.1	3.2	100.0	95.7	0.3	1.4	2.6	100.0

【質問2-(2)、(3)】(身体拘束を実際に行っている事業者数)【経年変化】

○身体拘束を実施している事業所数、率ともに減少

○適正な手続きをしないで実施している事業所の割合も減少

項目	H14		H16		H19		H22		H25	
	回答数	構成比(%)	回答数	構成比(%)	回答数	構成比(%)	回答数	構成比(%)	回答数	構成比(%)
何等かの身体拘束を実施している (a)	156	67.0	185	58.4	186	45.9	223	42.1	166	25.5%
(a)うち、手続きを踏まえたうえで実施			153	82.7%	153	82.3%	191	85.7%	144	86.7%
(a)うち、手続きしないで実施			32	17.3%	33	17.7%	32	14.3%	22	13.3%
身体拘束はしていない	77	33.0	132	41.6	219	54.1	307	57.9	486	74.5%
合計	233	100.0	317	100.0	405	100.0	530	100.0	652	100.0%

※「手続きを踏まえている事業所」:身体拘束を実施している事業所のうち、適正な手続きを踏まえた上で身体拘束が実施されている利用者が1名以上いる事業所。  
 「手続きを全く踏まえていない事業所」:身体拘束を実施している事業所のうち、適正な手続きを踏まえた上で身体拘束が実施されている利用者がいない事業所。

【質問2-(2)、(3)】(身体拘束を実際に行っている事業者数)【事業所種別】

○介護保険3施設での身体拘束の割合は高いが、手続きの必要性は理解している。

○その他の施設について、身体拘束の割合は低いが、適正な手続きをしないで実施している割合が高い傾向にある。

項目	特養		老健		療養型	
	回答数	構成比(%)	回答数	構成比(%)	回答数	構成比(%)
何等かの身体拘束を実施している (a)	61	40.1%	36	45.0%	16	69.6%
(a)うち、手続きを踏まえたうえで実施	56	91.8%	33	91.7%	15	93.8%
(a)うち、手続きしないで実施	5	8.2%	3	8.3%	1	6.3%
身体拘束はしていない	91	59.9%	44	55.0%	7	30.4%
合計	152	100.0%	80	100.0%	23	100.0%

項目	特定施設		ショートステイ		グループホーム	
	回答数	構成比(%)	回答数	構成比(%)	回答数	構成比(%)
何等かの身体拘束を実施している (a)	15	26.3%	2	12.5%	22	10.9%
(a)うち、手続きを踏まえたうえで実施	10	66.7%	1	50.0%	16	72.7%
(a)うち、手続きしないで実施	5	33.3%	1	50.0%	6	27.3%
身体拘束はしていない	42	73.7%	14	87.5%	180	89.1%
合計	57	100.0%	16	100.0%	202	100.0%

項目	小規模多機能		地域密着特定施設		地域密着特養		施設種別不明		合計	
	回答数	構成比(%)	回答数	構成比(%)	回答数	構成比(%)	回答数	構成比(%)	回答数	構成比(%)
何等かの身体拘束を実施している (a)	0	0.0%	1	10.0%	4	18.2%	9	33.3%	166	25.5%
(a)うち、手続きを踏まえたうえで実施	0		1	100.0%	3	75.0%	9	100.0%	144	86.7%
(a)うち、手続きしないで実施	0		0	0.0%	1	25.0%	0	0.0%	22	13.3%
身体拘束はしていない	63	100.0%	9	90.0%	18	81.8%	18	66.7%	486	74.5%
合計	63	100.0%	10	100.0%	22	100.0%	27	100.0%	652	100.0%

【質問2-(2)、(3)】(人数)

下記の具体的な行為を実際に行っている人数、そのうちで本人・家族などの希望によるもの的人数、また下記①～③までの全ての手続きを経て拘束を行っているもの的人数

- ※身体拘束を行うにあたっては、「切迫性」「非代替性」「一時性」の3要件を満たし、かつ、それらの要件の確認の手続きが極めて慎重に実施されているケースに限られる。
- ※具体的には、下記の①～③などについて留意する必要がある。
- ①「緊急やむを得ない場合に該当するかどうかを施設全体で判断することとしているか
- ②利用者本人や家族から同意を得ているか
- ③拘束の態様及び時間、その際の利用者の心身の状況、緊急やむを得なかった理由を記録しているか

- 今回調査において、被拘束者の延べ人数は962人、実人数は790人。
- 本人、家族の希望は、実人数で214人(27.1%)。前年度と比べ、8.4%減少した。  
また、全ての手続きを経ている者の割合は、実人数では減少しているが、割合としては昨年度と比べ2.2%下回っている。
- 具体的な行為としては、「ベッド柵」、「ミトン型手袋」「Y字型拘束帯等」による拘束が多い。

(上段:人数(人)、下段:左から、実際に行っている者の構成比(%)、本人、家族の希望の割合(%)、全ての手続きを経ている者の割合(%))

対象者数 具体的な行為	H14		H16			H19			H22			H25		
	実際に 行っている者 (a)	(a)の うち、 本人、 家族の 希望	実際に 行っている者 (a)	(a)の うち、 本人、 家族の 希望	(a)の うち、 全ての 手続き を経ている者	実際に 行っている者 (a)	(a)の うち、 本人、 家族の 希望	(a)の うち、 全ての 手続き を経ている者	実際に 行っている者 (a)	(a)の うち、 本人、 家族の 希望	(a)の うち、 全ての 手続き を経ている者	実際に 行っている者 (a)	(a)の うち、 本人、 家族の 希望	(a)の うち、 全ての 手続き を経ている者
①徘徊しないように、車いすやベッドに体幹や四肢をひも等で縛る。	64	25	18	8	14	11	9	10	14	7	13	18	—	16
	2.4	39.1	0.8	44.4	77.8	0.9	81.8	90.9	1.1	50.0	92.9	1.9	—	88.9
②転落しないように、ベッドに体幹や四肢をひも等で縛る。	61	21	170	18	164	34	23	32	18	10	17	36	—	33
	2.2	34.4	7.2	10.6	96.5	2.8	67.6	94.1	1.5	55.6	94.4	3.7	—	91.7
③他人への迷惑行為を防ぐために、ベッドなどに体幹や四肢をひも等で縛る。	6	1	0	0	0	4	4	3	2	0	2	0	—	0
	0.2	16.7	0.0	0.0	0.0	0.3	100.0	75.0	0.2	0.0	100.0	0.0	—	0.0
④自分で降りられないように、ベッドを柵(サイドレール)で囲む。	1,186	242	921	228	461	433	172	298	461	138	379	282	—	229
	43.6	20.4	39.2	24.8	50.1	35.3	39.7	68.8	37.4	29.9	82.2	29.3	—	81.2
⑤点滴・経管栄養のチューブを抜かないように四肢をひも等で縛る。	73	27	83	48	59	26	26	17	13	6	13	18	—	17
	2.7	37.0	3.5	57.8	71.1	2.1	100.0	65.4	1.1	46.2	100.0	1.9	—	94.4
⑥点滴・経管栄養のチューブを抜かないように、または皮膚をかきむしらないように、手指の機能を制限するミトン型の手袋等をつける。	178	70	256	95	210	253	111	227	326	100	284	268	—	238
	6.5	39.3	10.9	37.1	82.0	20.6	43.9	89.7	26.4	30.7	87.1	27.9	—	88.8
⑦車いすや椅子からずり落ちたり、立ちあがりしないように、Y字型拘束帯や腰ベルト、車いすテーブルをつける。	753	312	673	323	537	315	174	270	307	112	262	245	—	232
	27.7	41.4	28.7	48.0	79.8	25.7	55.2	85.7	24.9	36.5	85.3	25.5	—	94.7
⑧立ち上がる能力のある人の立ち上がりを妨げるようないすを使用する。	22	32	4	1	4	8	3	5	0	0	0	10	—	1
	0.8	145.5	0.2	25.0	100.0	0.7	37.5	62.5	0.0	0.0	0.0	1.0	—	10.0
⑨脱衣やおむつはずしを制限するために、介護衣(つなぎ服)を着せる。	270	75	166	67	139	118	47	100	76	18	65	80	—	59
	9.9	27.8	7.1	40.4	83.7	9.6	39.8	84.7	6.2	23.7	85.5	8.3	—	73.8
⑩行動を落ち着かせるために、向精神薬を過剰に服用させる。	29	9	31	13	29	11	6	4	7	5	1	1	—	1
	1.1	31.0	1.3	41.9	93.5	0.9	54.5	36.4	0.6	71.4	14.3	0.1	—	100.0
⑪自分の意思で開けることのできない居室等に隔離する。	77	49	27	6	14	14	7	13	10	8	8	4	—	4
	2.8	63.6	1.1	22.2	51.9	1.1	50.0	92.9	0.8	80.0	80.0	0.4	—	100.0
対象者延べ人数合計	2,719	863	2,349	807	1,631	1,227	582	979	1,234	404	1,044	962	—	830
	100.0	31.7	100.0	34.4	69.4	100.0	47.4	79.8	100.0	32.7	84.6	100.0	—	86.3
対象者実人数合計	2,256	768	1,371	460	561	1,094	574	826	1,000	355	879	790	214	677
	100.0	34.0	100.0	33.6	40.9	100.0	52.5	75.5	100.0	35.5	87.9	100.0	27.1	85.7

※H14調査は、「全ての手続きを経ている者」についての項目を設けていない 23

【質問2-(2)、(3)】(人数、事業所別)

○介護保険3施設については、身体拘束の人数は多いが、手続きを経ている割合は高い。  
 その他の施設では、手続きを経ている割合が低く、家族からの希望により身体拘束を行っている割合が高い傾向にある。

(上段:人数(人)、下段:左から、実際にを行っている者の施設別の構成比(%), 全ての手続きを経ている者の割合(%))

対象者数 具体的な行為	特養		老健		療養型		特別施設		ショートステイ		GH		小規模多機能		地域密着特定施設		地域密着特養		施設種別不明		合計				
	実際に 行っている 者(a)	(a)のうち 全ての 手続きを 経ている 者	実際に 行っている 者(a)	(a)のうち 全ての 手続きを 経ている 者	実際に 行っている 者(a)	(a)のうち 全ての 手続きを 経ている 者	実際に 行っている 者(a)	(a)のうち 全ての 手続きを 経ている 者	実際に 行っている 者(a)	(a)のうち 全ての 手続きを 経ている 者	実際に 行っている 者(a)	(a)のうち 全ての 手続きを 経ている 者	実際に 行っている 者(a)	(a)のうち 全ての 手続きを 経ている 者	実際に 行っている 者(a)	(a)のうち 全ての 手続きを 経ている 者	実際に 行っている 者(a)	(a)のうち 全ての 手続きを 経ている 者	実際に 行っている 者(a)	(a)のうち 全ての 手続きを 経ている 者					
①寝廻ししないように、車いすやいす、ベッドに体幹や四肢をひも等で縛る。	2	2	5	3	10	10	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	18	16			
②転落しないように、ベッドに体幹や四肢をひも等で縛る。	0.9	100.0	1.4	60.0	3.9	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.6	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.9	88.9			
③他人への迷惑行為を妨ぐために、ベッドなどに体幹や四肢をひも等で縛る。	5	5	15	15	8	8	8	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	36	33			
④自分で降りられないように、ベッドを欄(サイドレール)で囲む。	2.3	100.0	4.2	100.0	3.1	100.0	18.2	62.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.7	91.7			
⑤点滴・経管栄養のチューブを抜かないように四肢をひも等で縛る。	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
⑥点滴・経管栄養のチューブを抜かないように、または皮膚をかきむしらないように、手指の機能を制限するミトン型の手袋等をつける。	68	59	119	90	47	43	16	12	1	0	21	17	0	0	0	0	0	0	0	0	10	8	282	229	
⑦車いすやいすからずり落ちたり、立ちあがったりしないように、Y字型拘束帯や腰ベルト、車いすテープをつける。	31.2	86.8	33.1	75.6	18.2	91.5	36.4	75.0	25.0	0.0	53.8	81.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	31.3	80.0	29.3	81.2	
⑧立ち上がる能力のある人の立ち上がりを妨げるようないすを使用する。	2	2	8	8	5	5	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	18	17		
⑨脱衣やおむつはずしを制限するために、介護衣(つなぎ服)を着せる。	0.9	100.0	2.2	100.0	1.9	100.0	4.5	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.1	100.0	1.9	94.4	
⑩行動を落ち着かせるために、向精神薬を過剰に服用させる。	61	58	89	85	122	102	4	2	2	1	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	5	5	268	238	
⑪自分の意思で開けることのできない居室等に隔離する。	28.0	95.1	19.2	94.2	47.3	83.6	9.1	50.0	50.0	0.0	10.3	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15.6	100.0	27.9	88.8	
⑫立ち上がる能力のある人の立ち上がりを妨げるようないすを使用する。	58	53	122	118	29	29	5	5	0	0	11	7	0	0	0	0	0	0	0	0	6	13	13	245	232
⑬脱衣やおむつはずしを制限するために、介護衣(つなぎ服)を着せる。	26.6	91.4	34.0	96.7	11.2	100.0	11.4	100.0	0.0	0.0	28.2	63.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	40.6	100.0	25.5	94.7	
⑭行動を落ち着かせるために、向精神薬を過剰に服用させる。	3	1	0	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	1	
⑮自分の意思で開けることのできない居室等に隔離する。	1.4	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	15.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	10.0	
⑯行動を落ち着かせるために、向精神薬を過剰に服用させる。	17	17	19	19	37	17	2	1	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	80	59	
⑰自分の意思で開けることのできない居室等に隔離する。	7.8	100.0	5.3	100.0	14.3	45.9	4.5	50.0	0.0	0.0	5.1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9.4	100.0	8.3	73.8	
⑱自分の意思で開けることのできない居室等に隔離する。	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	
⑳自分の意思で開けることのできない居室等に隔離する。	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	100.0	
㉑自分の意思で開けることのできない居室等に隔離する。	2	2	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4	
対象者延べ人数合計	0.9	100.0	0.6	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	100.0		
対象者延べ人数合計	218	199	359	320	258	214	44	26	4	2	38	31	0	0	1	1	7	7	32	30	962	830			
対象者実人数合計	100.0	91.3	100.0	89.1	100.0	82.9	100.0	59.1	100.0	50.0	100.0	79.5	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0	100.0	93.8	100.0	86.3			
うち、家族の希望による拘束者数(割合)	203	181	293	256	181	157	40	22	4	2	37	27	0	0	1	1	7	7	24	24	790	677			
	--	89.2	--	87.4	--	86.7	--	55.0	--	50.0	--	73.0	--	0.0	--	100.0	--	100.0	--	100.0	--	85.7			
	77	--	49	--	41	--	18	--	4	--	18	--	0	--	1	--	3	--	3	--	214	--			
	37.9	--	16.7	--	22.7	--	45.0	--	100.0	--	48.6	--	0.0	--	100.0	--	42.9	--	12.5	--	27.1	--			

【質問2-(2)、(3)】(利用者の状況)

○被拘束者数は790人、拘束率は2.8%。人数、割合ともに前年度に比べ、減少。

そのうち適正な手続きを踏まえていない拘束は14.3%。前年度に比べ、人数は減ったものの割合としては2.2%悪化。

	H14	H16	H19	H22	H25
定員	—	20,348	23,646	28,644	32,904
利用者数	17,441	17,454	20,731	26,014	28,718
利用(入所)率(%)	—	85.8	87.7	90.8	87.3
被拘束者数	2,256	1,371	1,094	1,000	790
拘束率(%)	12.9	7.9	5.3	3.8	2.8
うち手続きなし	—	810	268	121	113
手続きなしの割合(%)	—	59.1	24.5	12.1	14.3
うち家族の要望あり	768	460	574	355	214
家族の要望の割合(%)	34.0	33.6	52.5	35.5	27.1

※無回答の事業所があるため、【質問3-(1)】～【質問3-(5)】の計が一致しない。  
 本調査における利用者数は、【質問3-(1)】～【質問3-(1)】の利用者数の計のうち最大となる【質問3-(4)】の利用者数の計28,718人とする。  
 ※被拘束者数は、【質問2-(2)】「実際に行っている者」の対象者実人数合計であり、拘束率は、(被拘束者/利用者数)により算定。  
 ※「うち手続きなし」は、【質問2-(3)】の「実際に行っている者」の対象者実人数合計から、「全ての手続きを経ている者」の対象者実人数合計を除いた数であり、「手続きなしの割合」は、(うち手続きなし/拘束者数)により算定。

【質問2-(2)、(3)】(定員・利用者数、事業所別)

○利用者の構成は、特養と老健で6割以上を占める。

○拘束率は、療養型が12.4%で最も高い。

○被拘束者のうち適正な手続きを踏まえていない拘束の割合では、特定施設とショートステイ、GHが高い。

○家族からの要望により拘束を実施している割合は、介護保険3施設以外で高い。

施設種別		特養	老健	療養型	特定施設	ショートステイ	GH	小規模多機能	地域密着特定施設	地域密着特養	事業所種別不明	合計
定員、利用者数	定員	11,541	8,722	1,930	3,423	432	3,137	1,525	248	587	1,359	32,904
	構成比(%)	35.1	26.5	5.9	10.4	1.3	9.5	4.6	0.8	1.8	4.1	100.0
	利用者数	11,094	7,737	1,458	2,264	239	2,879	1,044	210	557	1,236	28,718
	構成比(%)	38.6	26.9	5.1	7.9	0.8	10.0	3.6	0.7	1.9	4.3	100.0
	利用(入所)率(%)	96.1	88.7	75.5	66.1	55.3	91.8	68.5	84.7	94.9	90.9	87.3
被拘束者数 ※拘束率は、利用者数に対する割合	被拘束者数	203	293	181	40	4	37	0	1	7	24	790
	拘束率(%)	1.8	3.8	12.4	1.8	1.7	1.3	0.0	0.5	1.3	1.9	2.8
	うち手続きなし	22	37	24	18	2	10	0	0	0	0	113
	割合(%)	10.8	12.6	13.3	45.0	50.0	27.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3
	うち家族の要望あり	77	49	41	18	4	18	0	1	3	3	214
割合(%)	37.9	16.7	22.7	45.0	100.0	48.6	0.0	100.0	42.9	12.5	27.1	

※無回答の事業所があるため、【質問3-(1)】～【質問3-(5)】の計が一致しない。  
 本調査における利用者数は、【質問3-(1)】～【質問3-(1)】の利用者数の計のうち最大となる【質問3-(4)】の利用者数の計28,718人とする。  
 ※被拘束者数は、【質問2-(2)】「実際に行っている者」の対象者実人数合計であり、拘束率は、(被拘束者/利用者数)により算定。  
 ※「うち手続きなし」は、【質問2-(3)】の「実際に行っている者」の対象者実人数合計から、「全ての手続きを経ている者」の対象者実人数合計を除いた数であり、「手続きなしの割合」は、(うち手続きなし/拘束者数)により算定。

【質問3-(1)】(利用者の年齢・性別状況)

○利用者の23.5%が男性、76.5%が女性である。

うち、男性の拘束率は3.3%、女性の拘束率は2.7%である。

○全体の利用者・被拘束者数は、85～94歳が最も多い。

男性の利用者・被拘束者数は、75～84歳が最も多く、女性の利用者・被拘束者数は85～94歳が最も多い。

○全体の拘束率は95歳以上が3.6%で最も高い。

男性の拘束率は75～84歳が3.5%で最も高く、女性の拘束率は65歳未満と95歳以上が同率3.6%で最も高い。

	65歳未満	65～74歳	75～84歳	85～94歳	95歳以上	計
男性	269	993	2,498	2,359	349	6,468
構成比(%)	4.2	15.4	38.6	36.5	5.4	100.0
被拘束者数	6	32	88	74	12	212
構成比(%)	2.8	15.1	41.5	34.9	5.7	100.0
拘束率(%)	2.2	3.2	3.5	3.1	3.4	3.3
女性	197	1,178	6,150	10,843	2,682	21,050
構成比(%)	0.9	5.6	29.2	51.5	12.7	100.0
被拘束者数	7	29	165	276	97	574
構成比(%)	1.2	5.1	28.7	48.1	16.9	100.0
拘束率(%)	3.6	2.5	2.7	2.5	3.6	2.7
計	466	2,171	8,648	13,202	3,031	27,518
構成比(%)	1.7	7.9	31.4	48.0	11.0	100.0
被拘束者数	13	61	253	350	109	786
構成比(%)	1.7	7.8	32.2	44.5	13.9	100.0
拘束率(%)	2.8	2.8	2.9	2.7	3.6	2.9

【質問3-(2)】(利用者の医療状況)

○医療状況にある利用者の拘束率は7.5%。前回8.3%より改善した。

○医療状況にある利用者数は、経管栄養が最も多く、全体の61.7%を占める。

○被拘束者数は、経管栄養が84.9%で最も多く、拘束率も10.3%で最も高い。

	点滴	経管栄養	中心静脈栄養	気管切開	留置カテーテル	酸素吸入	その他	計
利用者数	224	1,964	25	42	640	189	98	3,182
構成比(%)	7.0	61.7	0.8	1.3	20.1	5.9	3.1	100.0
被拘束者数	3	203	2	0	25	1	5	239
構成比(%)	1.3	84.9	0.8	0.0	10.5	0.4	2.1	100.0
拘束率(%)	1.3	10.3	8.0	0.0	3.9	0.5	5.1	7.5

【質問3-(3)】(利用者の排泄状況)

○利用者の排泄状況については、トイレ誘導が最も多く、36.2%を占める。(前回は、おむつが最も多かった。)

○被拘束者数は、おむつが59.9%で最も多く、拘束率も5.1%で最も高い。

	自分でトイレ	トイレ誘導	ポータブルトイレ	尿瓶	おむつ	カテーテル	その他	計
利用者数	7,833	10,211	873	106	8,200	745	242	28,210
構成比(%)	27.8	36.2	3.1	0.4	29.1	2.6	0.9	100.0
被拘束者数	19	218	8	1	415	32	0	693
構成比(%)	2.7	31.5	1.2	0.1	59.9	4.6	0.0	100.0
拘束率(%)	0.2	2.1	0.9	0.9	5.1	4.3	0.0	2.5

【質問3-(4)】(利用者の要介護度)

○利用者の要介護度については、要介護4が最も多く、26.0%を占める。

○被拘束者数は、要介護5が40.2%で最も多く、拘束率も4.9%で最も高い。

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
利用者数	194	259	3,555	4,513	6,361	7,470	6,366	28,718
構成比(%)	0.7	0.9	12.4	15.7	22.1	26.0	22.2	100.0
被拘束者数	0	1	10	36	107	305	309	768
構成比(%)	0.0	0.1	1.3	4.7	13.9	39.7	40.2	100.0
拘束率(%)	0.0	0.4	0.3	0.8	1.7	4.1	4.9	2.7

【質問3-(5)】(利用者の認知症の程度(日常生活自立度))

○利用者の認知症の程度については、Ⅲaが最も多く、27.7%を占める。

○被拘束者数は、Ⅳが34.1%で最も多く、拘束率は、Ⅳが6.9%で最も高い。

	自立	I	Ⅱa	Ⅱb	Ⅲa	Ⅲb	Ⅳ	M	計
利用者数	969	1,835	2,558	4,613	7,187	3,051	4,365	1,344	25,922
構成比(%)	3.7	7.1	9.9	17.8	27.7	11.8	16.8	5.2	100.0
被拘束者数	0	2	12	44	156	132	227	93	666
構成比(%)	0.0	0.3	1.8	6.6	23.4	19.8	34.1	14.0	100.0
拘束率(%)	0.0	0.1	0.5	1.0	2.2	4.3	5.2	6.9	2.6

【質問3-(6)】(拘束時間帯 H25から調査実施)

○被拘束者数、拘束率ともに、一日中が最も多い。

	1日中	日中のみ	夜間帯	食事時間帯	その他	計
被拘束者数	220	136	201	96	94	747
構成比(%)	29.5	18.2	26.9	12.9	12.6	100.0



【質問3-(1)】 (年齢・性別・事業所別)

○年齢別で拘束率が最も高いのは95歳以上であり、施設ごとの割合では、療養型、老健、特定施設の順に高い。

項目	施設種別												合計
	特養	老健	療養型	特定施設	ショートステイ	GH	小規模多機能	地域密着特定施設	地域密着特養	事業所種別不明	合計		
65歳未満 ※構成比は施設別、男女別計に対する割合(以下同じ)	男性	77	106	13	26	3	18	8	1	5	12	269	
	構成比%	3.6	5.4	3.7	4.5	4.7	2.9	3.4	2.0	3.2	4.4	4.2	
	被拘束者数	2	4	0	0	0	0	0	0	0	0	6	
	拘束率%	2.6	3.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.2	
	女性	58	58	23	18	2	11	13	0	6	8	197	
	構成比%	0.7	1.0	2.4	1.1	1.3	0.6	2.0	0.0	1.2	0.9	0.9	
	被拘束者数	4	0	2	1	0	0	0	0	0	0	7	
	拘束率%	6.9	0.0	8.7	5.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.6	
	計	135	164	36	44	5	29	21	1	11	20	466	
	構成比%	1.3	2.1	2.7	2.0	2.3	1.1	2.3	0.5	1.7	1.8	1.7	
65~74歳	男性	337	334	49	77	6	91	35	5	18	41	993	
	構成比%	15.6	17.0	14.1	13.3	9.4	14.4	14.9	10.0	11.5	15.0	15.4	
	被拘束者数	3	15	5	5	1	1	0	0	0	2	32	
	拘束率%	0.9	4.5	10.2	6.5	16.7	1.1	0.0	0.0	0.0	4.9	3.2	
	女性	483	333	43	71	4	116	47	8	27	46	1,178	
	構成比%	5.7	5.8	4.5	4.4	2.6	5.9	7.1	5.3	5.5	5.3	5.6	
	被拘束者数	7	12	4	5	0	0	0	0	1	0	29	
	拘束率%	1.4	3.6	9.3	7.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.7	0.0	2.5	
	計	820	667	92	148	10	207	82	13	45	87	2,171	
	構成比%	7.7	8.7	7.0	6.8	4.6	8.0	9.2	6.5	7.0	7.6	7.9	
75~84歳	男性	892	719	134	202	31	252	89	19	63	97	2,498	
	構成比%	41.2	36.6	38.5	34.8	48.4	40.0	37.9	38.0	40.1	35.5	38.6	
	被拘束者数	29	34	11	8	1	1	0	0	1	3	88	
	拘束率%	3.3	4.7	8.2	4.0	3.2	0.4	0.0	0.0	1.6	3.1	3.5	
	女性	2,371	1,610	280	524	59	638	230	51	132	255	6,150	
	構成比%	27.8	28.3	29.1	32.7	38.1	32.6	34.8	34.0	27.1	29.5	29.2	
	被拘束者数	44	75	23	8	1	7	0	0	2	5	165	
	拘束率%	1.9	4.7	8.2	1.5	1.7	1.1	0.0	0.0	1.5	2.0	2.7	
	計	3,263	2,329	414	726	90	890	319	70	195	352	8,648	
	構成比%	30.6	30.4	31.6	33.3	41.1	34.4	35.6	35.0	30.3	30.9	31.4	
85~94歳	男性	743	695	137	246	21	232	88	21	62	114	2,359	
	構成比%	34.3	35.3	39.4	42.4	32.8	36.8	37.4	42.0	39.5	41.8	36.5	
	被拘束者数	11	22	24	11	1	1	0	0	0	4	74	
	拘束率%	1.5	3.2	17.5	4.5	4.8	0.4	0.0	0.0	0.0	3.5	3.1	
	女性	4,367	2,931	482	855	70	1,027	318	69	262	462	10,843	
	構成比%	51.3	51.5	50.1	53.4	45.2	52.4	48.1	46.0	53.8	53.4	51.5	
	被拘束者数	74	100	59	13	0	19	0	1	2	8	276	
	拘束率%	1.7	3.4	12.2	1.5	0.0	1.9	0.0	1.4	0.8	1.7	2.5	
	計	5,110	3,626	619	1,101	91	1,259	406	90	324	576	13,202	
	構成比%	47.9	47.3	47.2	50.5	41.6	48.6	45.3	45.0	50.3	50.6	48.0	
95歳以上	男性	115	113	15	29	3	37	15	4	9	9	349	
	構成比%	5.3	5.7	4.3	5.0	4.7	5.9	6.4	8.0	5.7	3.3	5.4	
	被拘束者数	1	6	2	2	0	1	0	0	0	0	12	
	拘束率%	0.9	5.3	13.3	6.9	0.0	2.7	0.0	0.0	0.0	0.0	3.4	
	女性	1,235	762	135	134	20	167	53	22	60	94	2,682	
	構成比%	14.5	13.4	14.0	8.4	12.9	8.5	8.0	14.7	12.3	10.9	12.7	
	被拘束者数	28	39	17	6	0	4	0	0	1	2	97	
	拘束率%	2.3	5.1	12.6	4.5	0.0	2.4	0.0	0.0	1.7	2.1	3.6	
	計	1,350	875	150	163	23	204	68	26	69	103	3,031	
	構成比%	12.6	11.4	11.4	7.5	10.5	7.9	7.6	13.0	10.7	9.1	11.0	
計 ※構成比は施設別、男女合計に対する割合 ※計の構成比は男女計に対する施設別構成比	男性	2,164	1,967	348	580	64	630	235	50	157	273	6,468	
	構成比%	20.3	25.7	26.5	26.6	29.2	24.3	26.2	25.0	24.4	24.0	23.5	
	被拘束者数	46	81	42	26	3	4	0	0	1	9	212	
	拘束率%	2.1	4.1	12.1	4.5	4.7	0.6	0.0	0.0	0.6	3.3	3.3	
	女性	8,514	5,694	963	1,602	155	1,959	661	150	487	865	21,050	
	構成比%	79.7	74.3	73.5	73.4	70.8	75.7	73.8	75.0	75.6	76.0	76.5	
	被拘束者数	157	226	105	33	1	30	0	1	6	15	574	
	拘束率%	1.8	4.0	10.9	2.1	0.6	1.5	0.0	0.7	1.2	1.7	2.7	
	計	10,678	7,661	1,311	2,182	219	2,589	896	200	644	1,138	27,518	
	構成比%	38.8	27.8	4.8	7.9	0.8	9.4	3.3	0.7	2.3	4.1	100.0	
被拘束者数	203	307	147	59	4	34	0	1	7	24	786		
拘束率%	1.9	4.0	11.2	2.7	1.8	1.3	0.0	0.5	1.1	2.1	2.9		

【質問3-(2)】(利用者の医療状況、事業所別)

○医療状況別で拘束率が最も高いのは経管栄養であり、施設ごとの割合では、GH、ショートステイ、療養型の順に高い。

施設種別		特養	老健	療養型	特定施設	ショートステイ	GH	小規模多機能	地域密着特定施設	地域密着特養	事業所種別不明	合計
点滴 ※構成比は施設別の計に対する割合	利用者	31	65	103	7	0	7	0	2	3	6	224
	構成比%	2.9	7.2	12.4	4.2	0.0	14.3	0.0	16.7	12.0	6.5	7.0
	被拘束者数	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	3
	拘束率%	0.0	0.0	1.0	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	1.3
経管栄養	利用者	703	575	527	58	12	7	7	7	16	52	1,964
	構成比%	66.6	63.9	63.5	34.5	52.2	14.3	25.9	58.3	64.0	55.9	61.7
	被拘束者数	53	54	82	5	2	3	0	0	1	3	203
	拘束率%	7.5	9.4	15.6	8.6	16.7	42.9	0.0	0.0	6.3	5.8	10.3
中心静脈栄養	利用者	1	0	17	6	0	1	0	0	0	0	25
	構成比%	0.1	0.0	2.0	3.6	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8
	被拘束者数	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	2
	拘束率%	0.0	0.0	5.9	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.0
気管切開	利用者	7	6	21	2	6	0	0	0	0	0	42
	構成比%	0.7	0.7	2.5	1.2	26.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.3
	被拘束者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	拘束率%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
留置カテーテル	利用者	236	205	97	41	1	12	14	2	6	26	640
	構成比%	22.4	22.8	11.7	24.4	4.3	24.5	51.9	16.7	24.0	28.0	20.1
	被拘束者数	2	11	7	4	0	1	0	0	0	0	25
	拘束率%	0.8	5.4	7.2	9.8	0.0	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0	3.9
酸素吸入	利用者	64	26	23	43	3	20	5	0	0	5	189
	構成比%	6.1	2.9	2.8	25.6	13.0	40.8	18.5	0.0	0.0	5.4	5.9
	被拘束者数	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	拘束率%	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5
その他	利用者	13	23	42	11	1	2	1	1	0	4	98
	構成比%	1.2	2.6	5.1	6.5	4.3	4.1	3.7	8.3	0.0	4.3	3.1
	被拘束者数	1	2	1	0	1	0	0	0	0	0	5
	拘束率%	7.7	8.7	2.4	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.1
計 ※計の構成比は利用者計に対する施設別構成比	利用者	1,055	900	830	168	23	49	27	12	25	93	3,182
	構成比%	33.2	28.3	26.1	5.3	0.7	1.5	0.8	0.4	0.8	2.9	100.0
	被拘束者数	57	67	92	11	3	4	0	0	1	4	239
	拘束率%	5.4	7.4	11.1	6.5	13.0	8.2	0.0	0.0	4.0	4.3	7.5

【質問3-(3)】(利用者の排泄状況、事業所別)

○排泄状況別で拘束率が最も高いのはおむつであり、施設ごとの割合では、療養型、特定施設、老健の順に高い。

施設種別		特養	老健	療養型	特定施設	ショートステイ	GH	小規模多機能	地域密着特定施設	地域密着特養	事業所種別不明	合計
回答 自分でトイレ ※構成比は施設別の計に対する割合	利用者	2,154	1,922	67	1,090	73	1,326	579	101	132	389	7,833
	構成比%	19.7	25.2	5.2	51.2	30.5	45.9	54.7	47.6	23.7	31.0	27.8
	被拘束者数	2	6	0	3	0	0	0	0	1	7	19
	拘束率%	0.1	0.3	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	1.8	0.2
トイレ誘導	利用者	4,281	2,736	157	531	112	1,187	382	80	265	480	10,211
	構成比%	39.1	35.9	12.1	25.0	46.9	41.1	36.1	37.7	47.6	38.2	36.2
	被拘束者数	58	102	9	22	1	12	0	1	4	9	218
	拘束率%	1.4	3.7	5.7	4.1	0.9	1.0	0.0	1.3	1.5	1.9	2.1
ポータブルトイレ	利用者	359	266	46	73	6	61	21	4	17	20	873
	構成比%	3.3	3.5	3.5	3.4	2.5	2.1	2.0	1.9	3.1	1.6	3.1
	被拘束者数	6	2	0	0	0	0	0	0	0	0	8
	拘束率%	1.7	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9
尿瓶	利用者	42	31	14	8	0	5	4	1	1	0	106
	構成比%	0.4	0.4	1.1	0.4	0.0	0.2	0.4	0.5	0.2	0.0	0.4
	被拘束者数	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	拘束率%	2.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9
おむつ	利用者	3,755	2,340	893	350	44	273	56	22	134	333	8,200
	構成比%	34.3	30.7	68.8	16.4	18.4	9.4	5.3	10.4	24.1	26.5	29.1
	被拘束者数	128	135	97	27	2	16	0	0	2	8	415
	拘束率%	3.4	5.8	10.9	7.7	4.5	5.9	0.0	0.0	1.5	2.4	5.1
カテーテル	利用者	261	224	118	63	1	21	16	4	8	29	745
	構成比%	2.4	2.9	9.1	3.0	0.4	0.7	1.5	1.9	1.4	2.3	2.6
	被拘束者数	5	12	10	2	1	1	0	0	0	1	32
	拘束率%	1.9	5.4	8.5	3.2	100.0	4.8	0.0	0.0	0.0	3.4	4.3
その他	利用者	101	101	3	13	3	16	1	0	0	4	242
	構成比%	0.9	1.3	0.2	0.6	1.3	0.6	0.1	0.0	0.0	0.3	0.9
	被拘束者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	拘束率%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
計 ※計の構成比は利用者計に対する施設別構成比	利用者	10,953	7,620	1,298	2,128	239	2,889	1,059	212	557	1,255	28,210
	構成比%	38.8	27.0	4.6	7.5	0.8	10.2	3.8	0.8	2.0	4.4	100.0
	被拘束者数	200	257	116	54	4	29	0	1	7	25	693
	拘束率%	1.8	3.4	8.9	2.5	1.7	1.0	0.0	0.5	1.3	2.0	2.5

【質問3-(4)】(利用者の要介護度、事業所別)

○要介護度別で拘束率が最も高いのは要介護5であり、施設ごとの割合では、療養型、特定施設、ショートステイの順に高い。

施設種別		特養	老健	療養型	特定施設	ショートステイ	GH	小規模多機能	地域密着特定施設	地域密着特養	事業所種別不明	合計
要支援1 ※構成比は施設別の計に対する割合	利用者	0	0	0	150	0	5	22	0	0	17	194
	構成比%	0.0	0.0	0.0	6.6	0.0	0.2	2.1	0.0	0.0	1.4	0.7
	被拘束者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	拘束率%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
要支援2	利用者	2	0	0	180	3	18	37	0	0	19	259
	構成比%	0.0	0.0	0.0	8.0	1.3	0.6	3.5	0.0	0.0	1.5	0.9
	被拘束者数	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	拘束率%	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4
要介護1	利用者	755	989	34	587	38	615	268	47	39	183	3,555
	構成比%	6.8	12.8	2.3	25.9	15.9	21.4	25.7	22.4	7.0	14.8	12.4
	被拘束者数	1	4	1	2	0	0	0	0	0	2	10
	拘束率%	0.1	0.4	2.9	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1	0.3
要介護2	利用者	1319	1396	66	429	45	705	238	45	74	196	4,513
	構成比%	11.9	18.0	4.5	18.9	18.8	24.5	22.8	21.4	13.3	15.9	15.7
	被拘束者数	2	19	3	3	1	3	0	0	0	5	36
	拘束率%	0.2	1.4	4.5	0.7	2.2	0.4	0.0	0.0	0.0	2.6	0.8
要介護3	利用者	2461	1783	147	361	59	805	246	49	140	310	6,361
	構成比%	22.2	23.0	10.1	15.9	24.7	28.0	23.6	23.3	25.1	25.1	22.1
	被拘束者数	26	52	8	8	0	9	0	0	2	2	107
	拘束率%	1.1	2.9	5.4	2.2	0.0	1.1	0.0	0.0	1.4	0.6	1.7
要介護4	利用者	3357	2093	539	301	60	459	154	38	168	301	7,470
	構成比%	30.3	27.1	37.0	13.3	25.1	15.9	14.8	18.1	30.2	24.4	26.0
	被拘束者数	74	111	79	15	0	14	0	1	1	10	305
	拘束率%	2.2	5.3	14.7	5.0	0.0	3.1	0.0	2.6	0.6	3.3	4.1
要介護5	利用者	3200	1476	672	256	34	272	79	31	136	210	6,366
	構成比%	28.8	19.1	46.1	11.3	14.2	9.4	7.6	14.8	24.4	17.0	22.2
	被拘束者数	95	99	67	24	3	11	0	0	4	6	309
	拘束率%	3.0	6.7	10.0	9.4	8.8	4.0	0.0	0.0	2.9	2.9	4.9
計 ※計の構成比は利用者計に対する施設別構成比	利用者	11,094	7,737	1,458	2,264	239	2,879	1,044	210	557	1,236	28,718
	構成比%	38.6	26.9	5.1	7.9	0.8	10.0	3.6	0.7	1.9	4.3	100.0
	被拘束者数	198	285	158	53	4	37	0	1	7	25	768
	拘束率%	1.8	3.7	10.8	2.3	1.7	1.3	0.0	0.5	1.3	2.0	2.7

【質問3-(5)】(利用者の認知症の程度(日常生活自立度)、事業所別)

○認知症の程度別で拘束率が最も高いのはMであり、施設ごとの割合では、特定施設、療養型、老健の順に高い。

施設種別		特養	老健	療養型	特定施設	ショートステイ	GH	小規模多機能	地域密着特定施設	地域密着特養	事業所種別不明	合計
自立 ※構成比は施設別の計に対する割合	利用者	200	195	5	364	5	20	56	52	6	66	969
	構成比%	2.0	2.7	0.3	18.4	3.6	0.8	6.4	33.1	1.4	5.9	3.7
	被拘束者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	拘束率%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
I	利用者	533	556	35	305	19	114	138	7	22	106	1,835
	構成比%	5.4	7.6	2.4	15.4	13.6	4.4	15.7	4.5	5.1	9.4	7.1
	被拘束者数	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	拘束率%	0.2	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
II a	利用者	660	927	75	260	24	286	127	12	23	164	2,558
	構成比%	6.7	12.7	5.1	13.1	17.1	11.2	14.5	7.6	5.3	14.6	9.9
	被拘束者数	1	6	0	1	0	0	0	0	0	4	12
	拘束率%	0.2	0.6	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.4	0.5
II b	利用者	1579	1248	66	453	33	749	183	26	85	191	4,613
	構成比%	16.0	17.1	4.5	22.9	23.6	29.2	20.9	16.6	19.7	17.0	17.8
	被拘束者数	9	20	1	3	0	6	0	1	0	4	44
	拘束率%	0.6	1.6	1.5	0.7	0.0	0.8	0.0	3.8	0.0	2.1	1.0
III a	利用者	3028	2234	247	265	26	730	202	25	118	312	7,187
	構成比%	30.6	30.6	17.0	13.4	18.6	28.5	23.0	15.9	27.4	27.7	27.7
	被拘束者数	45	76	14	8	1	6	0	0	0	6	156
	拘束率%	1.5	3.4	5.7	3.0	3.8	0.8	0.0	0.0	0.0	1.9	2.2
III b	利用者	1277	935	160	127	12	284	84	10	56	106	3,051
	構成比%	12.9	12.8	11.0	6.4	8.6	11.1	9.6	6.4	13.0	9.4	11.8
	被拘束者数	22	70	13	14	0	8	0	0	1	4	132
	拘束率%	1.7	7.5	8.1	11.0	0.0	2.8	0.0	0.0	1.8	3.8	4.3
IV	利用者	2082	920	501	165	17	320	77	24	107	152	4,365
	構成比%	21.0	12.6	34.4	8.3	12.1	12.5	8.8	15.3	24.8	13.5	16.8
	被拘束者数	67	53	78	15	1	7	0	0	0	6	227
	拘束率%	3.2	5.8	15.6	9.1	5.9	2.2	0.0	0.0	0.0	3.9	5.2
M	利用者	539	278	368	40	4	61	10	1	14	29	1,344
	構成比%	5.4	3.8	25.3	2.0	2.9	2.4	1.1	0.6	3.2	2.6	5.2
	被拘束者数	24	18	41	7	0	2	0	0	0	1	93
	拘束率%	4.5	6.5	11.1	17.5	0.0	3.3	0.0	0.0	0.0	3.4	6.9
計 ※計の構成比は利用者計に対する施設別構成比	利用者	9,898	7,293	1,457	1,979	140	2,564	877	157	431	1,126	25,922
	構成比%	38.2	28.1	5.6	7.6	0.5	9.9	3.4	0.6	1.7	4.3	100.0
	被拘束者数	169	244	147	48	2	29	0	1	1	25	666
	拘束率%	1.7	3.3	10.1	2.4	1.4	1.1	0.0	0.6	0.2	2.2	2.6

【質問3-(6)】(拘束時間帯、事業所別 H25から調査実施)

○拘束時間帯別で被拘束者数が最も高いのは一日中であり、施設ごとの割合では、療養型、特養、ショートステイの順に高い。

施設種別		特養	老健	療養型	特定施設	ショートステイ	GH	小規模多機能	地域密着特定施設	地域密着特養	施設種別不明	合計
回答	被拘束者数											
	構成比%											
1日中	被拘束者数	59	63	79	9	1	4	0	0	0	5	220
※構成比は施設別の計に対する割合	構成比%	29.1	24.3	51.0	16.1	25.0	10.8	0.0	0.0	0.0	20.0	29.5
日中のみ	被拘束者数	41	61	11	4	0	4	0	0	5	10	136
	構成比%	20.2	23.6	7.1	7.1	0.0	10.8	0.0	0.0	71.4	40.0	18.2
夜間帯	被拘束者数	62	61	13	34	2	22	0	0	0	7	201
	構成比%	30.5	23.6	8.4	60.7	50.0	59.5	0.0	0.0	0.0	28.0	26.9
食事時間帯	被拘束者数	28	24	39	1	1	1	0	0	1	1	96
	構成比%	13.8	9.3	25.2	1.8	25.0	2.7	0.0	0.0	14.3	4.0	12.9
その他	被拘束者数	13	50	13	8	0	6	0	1	1	2	94
	構成比%	6.4	19.3	8.4	14.3	0.0	16.2	0.0	100.0	14.3	8.0	12.6
計	被拘束者数	203	259	155	56	4	37	0	1	7	25	747
	※計の構成比は利用者計に対する施設別構成比	構成比%	27.2	34.7	20.7	7.5	0.5	5.0	0.0	0.1	0.9	3.3

【質問4】（了解者）

身体拘束を行うとき、誰の了解を得ているか（複数回答）

○検討委員会など事業所全体での意思決定が69.9%であり、3割程度の事業所で徹底されていない。

回 答	H25	
	回答数	構成比(%)
ア 検討委員会など事業所全体での意思決定	116	69.9
イ 施設長、院長	113	68.1
ウ 担当医師	46	27.7
エ 現場の責任者（看護師長等）	107	64.5
オ 現場のスタッフ	85	51.2
カ その他	61	36.7
キ 回答なし	2	1.2
回答実数	166	100.0

※H25から身体拘束実施事業所のみ回答

【質問5】（記録の内容）

身体拘束を行うときに、どのような項目を記録しているか（複数回答）

○記録をしていない事業所は、4.8%であり、ほとんどの事業所でいずれかの項目の記録が記録されている。しかし、各項目への記録が完全に徹底されているとは言えない。

回 答	H25	
	回答数	構成比(%)
ア 入所者の心身の状況	127	76.5
イ 身体拘束の態様（具体的な方法）	136	81.9
ウ 身体拘束の時間	136	81.9
エ 身体拘束を行なった理由	142	85.5
オ 日々の心身の状態等の観察・再検討結果	121	72.9
カ 特に記録していない	8	4.8
キ その他	6	3.6
ク 回答なし	3	1.8
回答実数	166	100.0

※H25から身体拘束実施事業所のみ回答

【質問6-(1)】（本人又は家族からの同意）

身体拘束を行うときの本人又は家族などへの説明、同意

○文書による同意取得は89.2%であり、かなり徹底してきている。

回 答	H25	
	回答数	構成比(%)
ア 本人又は家族などから口頭で同意を得ている。	11	6.6
イ 本人又は家族などから文書で同意を得ている。	148	89.2
ウ 同意を得ていない。	0	0.0
エ その他	1	0.6
オ 回答なし	6	3.6
合計	166	100.0

※H25から身体拘束実施事業所のみ回答

【質問6-(2)】（本人又は家族からの申出への対応、H25から調査実施）

身体拘束を行うときの本人又は家族などへの説明、同意

○家族からの申出により、やむを得ず身体拘束を行っている場合が3割程度ある。

回 答	H25	
	回答数	構成比(%)
ア 身体拘束廃止の趣旨を説明し、理解を得ている。	81	48.8
イ やむを得ず身体拘束を行っている場合がある。	59	35.5
ウ その他	9	5.4
オ 回答なし	17	10.2
合計	166	100.0

※H25から身体拘束実施事業所のみ回答

【質問7-(1)】(前回調査以降の変化、H16から調査実施)

前回の調査時点において身体拘束を行っていたか。

○身体拘束の実施は、減少傾向にある。

回 答	H16		H19		H22		H25	
	回答数	構成比(%)	回答数	構成比(%)	回答数	構成比(%)	回答数	構成比(%)
ア 行っていた。	141	44.5	156	38.5	219	41.3	182	27.9
イ 行っていないかった。	83	26.2	119	29.4	247	46.6	366	56.1
ウ 前回調査時点以降の開設または回答なし	93	29.3	130	32.1	51	9.6	87	13.3
エ 回答なし(H22以降)					13	2.5	17	2.6
合計	317	100.0	405	100.0	530	100.0	652	100.0

【質問7-(2)】(前回調査以降の変化、H16から調査実施)

(1)で「ア 行っていた」と回答した事業所のその後の身体拘束の状況の変化

○前回調査時点で身体拘束を行っていた事業所も、その後「拘束はなくなった。」

または「減少した。」「やや減少した。」が76.4%を占める。

回 答	H16		H19		H22		H25	
	回答数	構成比(%)	回答数	構成比(%)	回答数	構成比(%)	回答数	構成比(%)
ア 拘束はなくなった。	7	5.0	36	23.1	47	21.5	57	31.3
イ 減少した。	62	44.0	62	39.7	62	28.3	58	31.9
ウ やや減少した。	52	36.9	35	22.4	70	32.0	24	13.2
エ 変化なし。	14	9.9	17	10.9	28	12.8	29	15.9
オ やや増加した(H25以降)。							8	4.4
カ 増加した。	4	2.8	2	1.3	9	4.1	2	1.1
キ 回答なし	0	0.0	0	0.0	2	0.9	4	2.2
合計	141	100.0	156	100.0	219	100.0	182	100.0

【質問7-(3)】(前回調査以降の変化、H16から調査実施)

(2)で「ア 拘束はなくなった。」「イ 減少した。」「ウ やや減少した。」と回答した事業所について、その理由(H19以降は複数回答)

○トップを含めスタッフ間で議論し、共通認識を持ったこと、トップが身体拘束廃止を決意し、方針を徹底したことが身体拘束の減少につながっていると回答した事業所が多い。

回 答	H16		H19		H22		H25	
	回答数	構成比(%)	回答数	構成比(%)	回答数	構成比(%)	回答数	構成比(%)
ア 組織のトップ(施設長、病院長等)や責任者(看護・介護部長等)が身体拘束廃止を決意し、その方針を徹底した(身体拘束廃止委員会等の設置)。	33	27.3	98	69.0	100	55.9	90	64.7
イ トップを含めスタッフ間で身体拘束の弊害をしっかりと認識し、廃止できるか十分に議論して、共通の認識をもった。	29	24.0	101	71.1	120	67.0	100	71.9
ウ 個々の利用者について再度心身の状態をアセスメントし、行動・心理症状(BPSD)の原因の除去等の状況改善に努めた。	45	37.2	116	81.7	146	81.6	88	63.3
エ 転倒や転落などの事故が起きにくい環境づくりをした(手すりをつける、足元に物を置かない、ベッドの高さを低くする、弾力のある床材の使用など)。	8	6.6	96	67.6	121	67.6	74	53.2
オ スタッフ全員で助け合える柔軟な態勢づくりをした(利用者が落ち着かない状態にあるなど対応が困難な場合については、日中・夜間・休日を含め事業所等の他のスタッフが随時応援に入れるなど)。	3	2.5	50	35.2	47	26.3	51	36.7
カ その他	0	0.0	5	3.5	10	5.6	24	17.3
キ 回答なし	3	2.5	0	0.0	1	0.6	0	0.0
回答実数	121	100.0	142	100.0	179	100.0	139	100.0



【質問7-(4)】(前回調査以降の変化、H16から調査実施)

(2)で「エ 変化なし。」「オ やや増加した。」「カ 増加した。」と回答した事業所において、身体拘束をなくすこと、減少することが困難な理由(複数回答)

○安全確保のための事故防止または本人・家族の希望が、身体拘束の減少を困難にさせる理由と回答した事業所が多い。

回 答	H16		H19		H22		H25	
	回答数	構成比(%)	回答数	構成比(%)	回答数	構成比(%)	回答数	構成比(%)
ア 転倒・転落事故を防ぐため(安全の確保)	15	83.3	14	73.7	26	70.3	27	69.2
イ 事故が起きた場合の施設の法的責任問題が不安	1	5.6	3	15.8	3	8.1	4	10.3
ウ スタッフの人数不足	3	16.7	9	47.4	4	10.8	9	23.1
エ トップ、責任者、スタッフの認識・意欲の不足	2	11.1	5	26.3	1	2.7	1	2.6
オ 拘束をしないですむような福祉機器や設備の未導入	3	16.7	3	15.8	3	8.1	4	10.3
カ 拘束をしない具体的なケアの工夫が分からない	2	11.1	6	31.6	5	13.5	3	7.7
キ 安全の確保のために本人や家族が拘束を希望	12	66.7	11	57.9	24	64.9	14	35.9
ク その他	4	22.2	4	21.1	9	24.3	16	41.0
ケ 回答なし	2	11.1	2	10.5	0	0.0	0	0.0
回答実数	18	100.0	19	100.0	37	100.0	39	100.0

【質問8-(1)】(取組と事故の発生の関連、H16から調査実施)

H19から早朝について、H22から死亡事故、H25からチューブの自己抜去、誤嚥についても回答発生した事故等(転倒・転落等による死亡、骨折、けが等)の件数

○全時間帯を通して、歩行時の転倒の事故が多い。死亡事故も若干数発生している。

H16調査(平成15年4月1日から平成16年3月31日までに発生した事故等)

回 答	昼間		夜間		合計	
	回答数	構成比(%)	回答数	構成比(%)	回答数	構成比(%)
ア ベッドからの転落	108	6.6	158	9.7	266	16.3
イ 車いすからの転落	150	9.2	112	6.8	262	16.0
ウ 歩行時の転倒	177	10.8	161	9.8	338	20.7
エ 入浴時の転倒	76	4.6	28	1.7	104	6.4
オ 徘徊や無断外出による施設外での事故	36	2.2	29	1.8	65	4.0
カ 無断外出に気づかない(けが等はな)	75	4.6	36	2.2	111	6.8
キ 車いすとベッドの移乗時の事故	104	6.4	86	5.3	190	11.6
ク 他利用者からの粗暴行為	61	3.7	47	2.9	108	6.6
ケ その他	108	6.6	84	5.1	192	11.7
合計	895	54.7	741	45.3	1,636	100.0

H19調査(平成18年4月1日から平成19年3月31日までに発生した事故等)

回 答	昼間		夜間		早朝		合計	
	回答数	構成比(%)	回答数	構成比(%)	回答数	構成比(%)	回答数	構成比(%)
ア ベッドからの転落	424	4.6	707	7.7	372	4.0	1,503	16.3
イ 車いすからの転落	1,108	12.0	329	3.6	242	2.6	1,679	18.3
ウ 歩行時の転倒	1,454	15.8	790	8.6	442	4.8	2,686	29.2
エ 入浴時の転倒	136	1.5	2	0.0	2	0.0	140	1.5
オ 徘徊や無断外出による施設外での事故	18	0.2	9	0.1	5	0.1	32	0.3
カ 無断外出に気づかない(けが等はなく無事に帰ってきた場合等)	163	1.8	30	0.3	2	0.0	195	2.1
キ 車いすとベッドの移乗時の事故	394	4.3	239	2.6	186	2.0	819	8.9
ク 他利用者からの粗暴行為	89	1.0	18	0.2	7	0.1	114	1.2
ケ その他	1,232	13.4	501	5.4	297	3.2	2,030	22.1
合計	5,018	54.6	2,625	28.5	1,555	16.9	9,198	100.0

H22調査(平成21年4月1日から平成22年3月31日までに発生した事故等)

回 答	昼間		夜間		早朝		合計		うち死亡	
	回答数	構成比(%)	回答数	構成比(%)	回答数	構成比(%)	回答数	構成比(%)	回答数	構成比(%)
ア ベッドからの転落	922	5.1	1,550	8.5	795	4.4	3,267	17.9	6	28.6
イ 車いすからの転落	1,946	10.7	740	4.1	568	3.1	3,254	17.9	1	4.8
ウ 歩行時の転倒	2,486	13.7	1,705	9.4	935	5.1	5,126	28.2	0	0.0
エ 入浴時の転倒	208	1.1	6	0.0	2	0.0	216	1.2	1	4.8
オ 徘徊や無断外出による施設外での事故	23	0.1	10	0.1	4	0.0	37	0.2	0	0.0
カ 無断外出に気づかない(けが等はなく無事に帰ってきた場合等)	371	2.0	37	0.2	43	0.2	451	2.5	—	—
キ 車いすとベッドの移乗時の事故	829	4.6	386	2.1	269	1.5	1,484	8.2	1	4.8
ク 他利用者からの粗暴行為	202	1.1	85	0.5	76	0.4	363	2.0	4	19.0
ケ その他	2,505	13.8	964	5.3	535	2.9	4,004	22.0	8	38.1
合計	9,492	52.1	5,483	30.1	3,227	17.7	18,202	100.0	21	100.0

H25調査(平成24年4月1日から平成25年3月31日までに発生した事故等)

回 答	昼間		夜間		早朝		合計		死亡	
	回答数	構成比(%)	回答数	構成比(%)	回答数	構成比(%)	回答数	構成比(%)	回答数	構成比(%)
ア ベッドからの転落	1,066	5.0	1,990	9.4	941	4.4	3,997	18.8	3	7.3
イ 車いすからの転落	2,030	9.6	786	3.7	563	2.7	3,379	15.9	0	0.0
ウ 歩行時の転倒	2,540	12.0	1,795	8.5	978	4.6	5,313	25.0	5	12.2
エ 入浴時の転倒	322	1.5	4	0.0	3	0.0	329	1.6	1	2.4
オ 移乗時の事故	1,101	5.2	538	2.5	363	1.7	2,002	9.4	0	0.0
カ チューブの自己抜去(新規)	221	1.0	243	1.1	122	0.6	586	2.8	0	0.0
キ 誤嚥・窒息(新規)	270	1.3	45	0.2	66	0.3	381	1.8	26	63.4
ク その他	3,280	15.5	1,226	5.8	722	3.4	5,228	24.6	6	14.6
合計	10,830	51.0	6,627	31.2	3,758	17.7	21,215	100.0	41	100.0

【質問8-(2)】(取組と事故の発生の関連)

身体拘束廃止に取り組んだ結果、介護に係る事故の発生状況について、取組の実施の前後を比較した際の変化

- 身体拘束に取り組む、事故が「増加した。」「やや増加した。」事業所は、5.8%だった。
- 事故が「やや減少した。」「減少した。」、または「事故はなかった。」事業所は11.3%で「変わらない」と回答した事業所と合わせると30.2%であった。取組による事故の増加との関連は見受けられなかった。

回 答	H14		H16		H19		H22		H25	
	回答数	構成比(%)	回答数	構成比(%)	回答数	構成比(%)	回答数	構成比(%)	回答数	構成比(%)
ア 増加した。	8	3.4	5	1.6	7	1.7	5	0.9	10	1.5
イ やや増加した。	47	20.2	39	12.3	47	11.6	54	10.2	28	4.3
ウ 変わらない。	75	32.2	86	27.1	156	38.5	238	44.9	123	18.9
エ やや減少した。	27	11.6	31	9.8	40	9.9	65	12.3	34	5.2
オ 減少した。	4	1.7	11	3.5	8	2.0	19	3.6	29	4.4
カ 事故はなかった。	12	5.2	12	3.8	20	4.9	51	9.6	11	1.7
キ 特に取組みをしていないため、回答できない。	—	—	—	—	21	5.2	25	4.7	8	1.2
ク その他	50	21.5	83	26.2	82	20.2	31	5.8	15	2.3
ケ 回答なし(H25は身体拘束未実施施設を含む)	10	4.3	50	15.8	24	5.9	42	7.9	394	60.4
合計	233	100.0	317	100.0	405	100.0	530	100.0	652	100.0

※H25から身体拘束実施事業所のみ回答

【質問8-(3)】(取組と事故の発生の関連、H25から調査実施)

(2)で「ア 増加した。」「イ やや増加した。」した施設について、増加、減少、変化なしの事故のそれぞれの内容(複数回答)

- 増加した事故は、「ベッドからの転落」「車いすからの転落」「チューブの自己抜去」の順で多い。

回 答	増加した		減少した		変わらない		合計	
	回答数	構成比(%)	回答数	構成比(%)	回答数	構成比(%)	回答数	構成比(%)
ア ベッドからの転落	26	16.0	3	1.8	4	2.5	33	20.2
イ 車いすからの転落	16	9.8	5	3.1	7	4.3	28	17.2
ウ 歩行時の転倒	11	6.7	2	1.2	8	4.9	21	12.9
エ 入浴時の転倒	0	0.0	3	1.8	13	8.0	16	9.8
オ 移乗時の事故	6	3.7	2	1.2	11	6.7	19	11.7
カ チューブの自己抜去	12	7.4	3	1.8	6	3.7	21	12.9
キ 誤嚥・窒息	4	2.5	1	0.6	12	7.4	17	10.4
ク その他	4	2.5	1	0.6	3	1.8	8	4.9
合計	79	48.5	20	12.3	64	39.3	163	100.0

【質問8-(4)】(取組と事故の発生の関連、H16から調査実施)

事故に対する予防対策(複数回答)

○事故発生報告等の作成及びカンファレンスは、ほぼ全ての事業所で徹底されているが、それ以外の取組は半数程度である。

回 答	H16		H19		H22		H25	
	回答数	構成比(%)	回答数	構成比(%)	回答数	構成比(%)	回答数	構成比(%)
ア 事故予防(対策)委員会等の設置	142	44.8	213	52.6	299	56.4	400	61.3
イ 事故予防(対策)マニュアルの作成	114	36.0	168	41.5	268	50.6	362	55.5
ウ 施設サービス計画において事故等を未然に防ぐためのアセスメント実施(H25以降)							366	56.1
エ 事故防止効果のある福祉用具や備品等の購入(H25以降)							314	48.2
オ 職員への研修会の開催	115	36.3	199	49.1	300	56.6	416	63.8
カ 事故発生報告、ヒヤリ・ハット報告等の作成及びカンファレンス	281	88.6	364	89.9	485	91.5	607	93.1
キ 特に講じていない	2	0.6	2	0.5	6	1.1	0	0.0
ク その他	13	4.1	12	3.0	16	3.0	19	2.9
ケ 回答なし	22	6.9	19	4.7	20	3.8	30	4.6
回答実数	317	100.0	405	100.0	530	100.0	652	100.0

【質問9-(1)】(周知度)

身体拘束が厚生労働省令により原則禁止されていることについての職員の周知度

○原則禁止であることについては、大部分の職員に周知されている。

回 答	H14		H16		H19		H22		H25	
	回答数	構成比(%)	回答数	構成比(%)	回答数	構成比(%)	回答数	構成比(%)	回答数	構成比(%)
ア 全ての職員に周知されている。	151	64.8	209	65.9	264	65.2	412	77.7	469	71.9
イ 大半の職員が知っている。	72	30.9	102	32.2	137	33.8	110	20.8	162	24.8
ウ 一部の職員が知っている。	6	2.6	3	0.9	4	1.0	5	0.9	10	1.5
エ 知らない。	1	0.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
オ その他	1	0.4	1	0.3	0	0.0	0	0.0	3	0.5
無回答	2	0.9	2	0.6	0	0.0	3	0.6	8	1.2
合計	233	100.0	317	100.0	405	100.0	530	100.0	652	100.0

【質問9-(2)】(取組内容)

身体拘束廃止についての取組(複数回答)

○身体拘束ゼロ宣言と施設内研修が主要な取組となっている。

回 答	H14		H16		H19		H22		H25	
	回答数	構成比(%)	回答数	構成比(%)	回答数	構成比(%)	回答数	構成比(%)	回答数	構成比(%)
ア ケアの方法や用具・設備・建物について身体拘束を少なくするための改善を行っている。	176	75.5	207	65.3	280	69.1	351	66.2	406	62.3
イ 職員に対して事業所内の研修を実施している。	123	52.8	138	43.5	258	63.7	375	70.8	492	75.5
ウ ケアの仕方などのマニュアルを作成している。	55	23.6	77	24.3	204	50.4	321	60.6	311	47.7
エ 身体拘束ゼロ宣言をしている。	66	28.3	102	32.2	245	60.5	406	76.6	535	82.1
オ 取組の長期、中期、短期の計画を策定している。	39	16.7	41	12.9	45	11.1	64	12.1	67	10.3
カ 家族の意識を高めるための学習会や研修会など実施している。	14	6.0	19	6.0	23	5.7	13	2.5	22	3.4
キ 事業所外の研修に職員を派遣している。	156	67.0	165	52.1	251	62.0	348	65.7	353	54.1
ク 特に取組をしていない。	3	1.3	18	5.7	9	2.2	4	0.8	8	1.2
ケ その他	20	8.6	24	7.6	20	4.9	13	2.5	9	1.4
無回答	2	0.9	5	1.6	0	0.0	0	0.0	11	1.7
回答実数	233	100.0	317	100.0	405	100.0	530	100.0	652	100.0

【質問9-(3)】(検討委員会の内容)

身体拘束を廃止するには事業所での検討委員会などの組織的取組が必要とされているが、その検討内容について(複数回答)

○個々の入所者についての状況評価・検討が主な検討内容となっている。

○検討委員会を設置していない事業所が9.7%あり、うち拘束実地事業所(166)における割合は8.4%である。

回 答	H14		H16		H19		H22		H25		H25のうち 拘束実地事業所	
	回答数	構成比(%)	回答数	構成比(%)	回答数	構成比(%)	回答数	構成比(%)	回答数	構成比(%)	回答数	構成比(%)
ア 個々の入所者について、状況の評価・検討を行っている。	179	76.8	238	75.1	289	71.4	387	73.0	488	74.8	141	84.9
イ 事業所全体が計画的に取り組むための改善計画を策定している。	88	37.8	81	25.6	107	26.4	166	31.3	179	27.5	48	28.9
ウ 数値目標を定めて取り組んでいる。	26	11.2	14	4.4	38	9.4	56	10.6	67	10.3	24	14.5
エ 検討委員会を設置しているが、具体的な検討は行っていない。	12	5.2	19	6.0	39	9.6	61	11.5	73	11.2	16	9.6
オ 検討委員会を設置していない。	59	25.3	98	30.9	87	21.5	95	17.9	63	9.7	14	8.4
カ その他	26	11.2	22	6.9	27	6.7	36	6.8	26	4.0	1	0.6
無回答	1	0.4	14	4.4	5	1.2	8	1.5	40	6.1	8	4.8
回答実数	233	100.0	317	100.0	405	100.0	530	100.0	652	100.0	166	100.0

【質問10-(1)】(取組の認知度等、平成24年度高齢者権利擁護等推進研修会等(静岡県、静岡県看護協会))

身体拘束廃止推進員養成研修(H24.9.3他)、身体拘束廃止推進看護実務者研修(H24.10.31)、  
身体拘束廃止フォーラム(H25.1.24)

○推進員養成研修への参加率は14.5%、看護実務者研修への参加率は11.3%、  
フォーラムへの参加率は26.6%。

【推進員養成研修】

回 答	H22		H25	
	回答数	構成比(%)	回答数	構成比(%)
参加し、事業所内で報告会	63	12.4	59	9.0
参加した	44	8.6	36	5.5
知っているが、参加しなかった	232	45.5	260	39.9
聞いたことはあるが、内容は知らない	51	10.0	96	14.7
初めてあることを知った	31	6.1	69	10.6
無回答	89	17.5	132	20.2
合計	510	100.0	652	100.0

【看護実務者研修】

回 答	H22		H25	
	回答数	構成比(%)	回答数	構成比(%)
参加し、事業所内で報告会	45	8.6	34	5.2
参加した	52	9.9	40	6.1
知っているが、参加しなかった	231	44.1	242	37.1
聞いたことはあるが、内容は知らない	54	10.3	96	14.7
初めてあることを知った	38	7.3	84	12.9
無回答	104	19.8	156	23.9
合計	524	100.0	652	100.0

【フォーラム】

回 答	H22		H25	
	回答数	構成比(%)	回答数	構成比(%)
参加し、事業所内で報告会	82	15.6	82	12.6
参加した	97	18.4	91	14.0
知っているが、参加しなかった	188	35.7	261	40.0
聞いたことはあるが、内容は知らない	53	10.1	87	13.3
初めてあることを知った	19	3.6	29	4.4
無回答	88	16.7	102	15.6
合計	527	100.0	652	100.0

【質問10-(2)】(取組の認知度等、身体拘束ゼロ宣言、H19から調査実施)

身体拘束ゼロ宣言(H17~)

○98.0%に認知されている。

回 答	H19		H22		H25	
	回答数	構成比(%)	回答数	構成比(%)	回答数	構成比(%)
宣言をし、事業所全体で取り組んでいる	255	63.0	416	78.5	557	85.4
内容は知っているが宣言していない	126	31.1	93	17.5	82	12.6
聞いたことはあるが、内容は知らない	9	2.2	3	0.6	2	0.3
初めてあることを知った	1	0.2	0	0.0	0	0.0
無回答	14	3.5	18	3.4	11	1.7
合計	405	100.0	530	100.0	652	100.0

【質問10-(3)】(取組の認知度等、高齢者虐待防止法、H19から調査実施)

高齢者虐待防止法

○81.6%に認知されている。

回 答	H19		H22		H25	
	回答数	構成比(%)	回答数	構成比(%)	回答数	構成比(%)
職員に研修等により、法に基づく行動まで周知した	100	24.7	157	29.6	259	39.7
法律の内容は知っている	199	49.1	246	46.4	273	41.9
法律の内容までは知らない	80	19.8	82	15.5	83	12.7
初めてあることを知った	3	0.7	3	0.6	0	0.0
無回答	23	5.7	42	7.9	37	5.7
合計	405	100.0	530	100.0	652	100.0